

新 雲仙プロジェクト通信 6号

平成25年8月3日(土)

今回、6回目の雲仙プロジェクトは、事前の時間的な余裕もあったこともあり、これまでの最高の7名の参加で実施することができました。また、今回から、「林業女子会 at 長崎」の若い女性メンバーの参加もあり、賑やかで、かつ華やかな雰囲気でした。次回のミヤマキリシマ保全活動は、10月ということですので。次回以降、さらに新たな参加者が増えることを期待しています。ご参加ください。それでは、その雲仙プロジェクトの報告です。

◆新メンバーも増え、元気なメンバー増殖中のミヤマキリシマ保全活動

8月3日の早朝7:00にJCCA九州支部前に集合した山下さん、金尾さん、森脇さん、矢ヶ部の4名は、いつものレンタカーで、いざ、奥雲仙へ出発。今回は、波木事務局長、木寺ご夫妻も現地集合で参加されるということで、総勢7名の強力メンバーでの参加となりました。

仕事が忙しくほとんど寝ていないということで車の中で眠らせて欲しいと話していた金尾さんが、車が動き出したとたん、今回初参加の森脇さんと、豊富な体験談を交え、元気ハツラツで盛りあがっておりました。特に、7月のコミュニティ学会の参加の感想談として、「地域づくりの発表は、実践者がその体験を話すのは少しマンネリ化してきた感が有り、むしろ、研究者が一步引いた目で客観的に分析した結果を発表することのほうに面白みを感じた」等、なかなか深い話をされながら、結局、車の中では一睡もせず、現場の奥雲仙田代原に到着。すでに、昨日から雲仙に来ていた木寺夫妻や地元の方々とも合流し、また、並木事務局長もほぼ定刻10:00に現地着で、共助研メンバー7名が全員揃いました。

到着早々、中田代表から、今日から、若い女性の林業ボランティアの方が参加することとなりましたと報告があり、しばらくして、5名の「林業女子会 at 長崎」のメンバーが到着し、会場は一気に華やかに。この「林業女子会 at 長崎」は、総メンバ15名で、行政の林業職の人、学生、その他いろいろな職業の若い女性たちが週末を利用して、林業のボランティア活動を行う団体で、昨年6月に発足したばかりだそうで、やる気満杯の元気ハツラツのグループです。

◆宮本秀利氏の座学から始まりました

最初に、今回から参加の若い人たちも参加されていることもあり、地元で造園業を営む宮本秀利氏から、「環境と自然」と題した環境への取り組みの心構えやその価値に関する講演がありました。宮本氏は、NPO 島原ボランティア協議会の発起人で元理事長、雲仙百年の森づくり会の会長、がまだすネットの会長等、雲仙、島原地域の地域づくりの柱となっている方です。これまでの取り組みの苦労話も混じえ1時間ほど熱っぽく語っていただきました。

講演される宮本氏 ⇒



さて宮本氏による座学も終わり、さっそく、ミヤマキリシマの保全活動として、地元の方々を含み参加者総勢20名ほどで現地へ向かいしました。

現地では、講演いただいた宮本氏から、ミヤマキリシマを守るための草刈の注意事項等の話を受けた上で、各自、カマや刈り込み道具を持って、活動開始。ちなみに、今回から参加している林業女子会のリーダーさんは、電動草刈機の使い方等は慣れていますよとの心強く話されていました。

下界とはまったく暑さが違う奥雲仙といえども、雑草の茂り方は下界と同じで、先月来た時にはある程度刈り込んでいたと思っていたミヤマキリシマの回りも、草ぼうぼうの状態です。下界とは2、3度は涼しいと思われるここ奥雲仙ですが、少し作業をするだけで汗びっしょりとなります。ミヤマキリシマにまわりつく雑草と格闘すること約1時間ほどで除去作業は終了しました。



今回も、作業のほとんどは、殿様街道と呼ばれる旧街道沿いの一部区間のミヤマキリシマを対象としていますが、街道南側には、数十メートル以上の奥までミヤマキリシマは生息しており、かつての風景を取り戻すには、膨大な作業料が必要であることを改めて思い知らされます。今後は、景観保全の観点から、計画的な保全活動を行うことも必要でしょうし、そのための作業量の把握や作業時期等の判断も検討しなければいけないでしょう。せっかくの保全活動も、活動の成

果や見通しが見えてこなければ、継続的に実施することは困難な状況に陥ることも想像できます。

◆さて、楽しい昼食と話し合いの時間です

昼食と休憩時間を兼ねて、地元の「田舎まんじゅうづくり」体験がおこなわれ、女子会の皆さんや木寺さん夫妻（特に、奥方）が大活躍でした。また、昼食も、そめん、地元惣菜の絶品が振舞われ、大満足。草刈で汗だくだくの苦労？も大いに報われました。

その後、今後の活動に関する話し合いが行われました。特に、中田代表より、活動の資金源を確保するためにどのようにすればいいかとの問題提起がされ、その場では、なかなか具体策の提示まではできませんでしたが、今後の活動を通じてのPR活動やニーズ把握等を行う必要性について意見が出されました。共助研としても、メンバーが少しずつ拡大しつつある雲仙プロジェクトを支援するための役割の再検討が、早急に必要であると痛感した次第です。

【第6号 新雲仙プロジェクト通信作成担当：矢ヶ部】

写真集



「林業女子会 at 長崎」のメンバーの紹介風景です



事務局木田さんからのこれまでの経緯報告の様子です